

The RifleSports

挑戦

これからへの





吉岡 大 ラピッドファイアピストル



平田しおり エアライフル



松田 知幸 エアピストル



水田 光夏 エアライフル

射手の美学

スポーツをやる人はもちろん、やらない人も、
観るのは好き、という人が少なくありません。
それは『スポーツのなかにストーリーがある』からではないでしょうか。
その物語をつくっているのは
アスリートであり、それを支えるさまざまな人たちです。
では、ライフル射撃競技にはどんなドラマがあるのでしょうか。
これから射撃界のストーリーを追い求めていきます。

集中と切り替え

クレー射撃をする父の姿を見て育った。父の遠征や試合は平田家にとつて、家族旅行のようなものだった。

私が小学生の頃、学生時代の先輩に勧められて父がクレー射撃を

始めました。その姿を見てすごいとは思いませんでした。ただ、父の遠征や

試合には家族旅行のような感じについて行きましたし、頭のどこかに父の姿があったのかもしれない

さん。高校に進学したとき、それまでずっと文化系のクラブに入っていましたので、何か新しいことに

チャレンジしてみたいという気持ちで湧いてきたんですね。そんなときに射撃を勧められました。ク

レーは年齢的にできないけれど、ライフルなら始められると聞き、体験会に参加してやってみたくて思うようになりました。黙々とやるのが昔から好きだったので、

そんなところが私には合っていると感じたのかもしれませんが。

始めて2ヶ月くらいで北信越大会に出場して1位になり、これがきっかけでライフルに夢中になっていったように思います。エアライフルを始めたのはその年の10月

で、翌年高校2年生の国体で準優勝しまして、3年生で東アジアユースでしたが初めて国際大会に出場

させていただくようになりました。短期間で国際大会に出場できる

までになったのは、田賀時夫コーチがビームライフルからエアライ

フルに進む最短ルートを敷いてくださったおかげ。感謝しています。

その後、射撃の名門・明治大学に入学。始めてわずか3年足らずで日本のトップ選手となり、世界の舞台上に躍り出た。

初めてのワールドカップは、大学1年生のときに出させていた

いた、ニューデリーで行われた大会です。7位入賞でした。このときから、もっと頑張ったら夢じゃないかも、ってオリンピックを意

識するようになり、上を目指そうと考えるようになりました。そして、2年生のアジア選手権で3位

になったら、コーチたちに「オリンピックに出られるよ」って言われて。実感はなかったですね。

そのオリンピックが延期になったことは、私にはよかったのかなと思います。ナショナルトレニ

ングセンターを中心に、自衛隊体育学校でも練習させていただきました。ただ、コロナで国際試合に出られなかったのは厳しかったですね。風といった天候に関する知識など、やはり試合から蓄積でき

るんです。東京大会の本番では、精いっぱい自分の射撃と向き合いました。でも、ファイナル進出と

はいきませんでした。そのあたりの経験不足が結果に表れてしまっ

たような気がしています。この東京オリンピックで見えてきた課題は、「緊張したなかでどれ

だけ自分の射撃を続けることができるか」ということ。大会は無観客でしたが、多くのボランテア

がどんなに私たちアスリートのために動いてくださったっているのかを

知ることができ、貴重な機会になりました。自国開催ということ

で、多くのおみなさんにリアルタイムで応援していただいて、それが

力にもなりました。同時に、海外で行われるオリンピックにも出場したいという新たな気持ちが生まれてきました。

小学生から長く書道が続けてきた。書道の筆をライフルに持ち替えても、培った精神はいかなく

發揮されている。書道は紙1枚書くにも流れが必要で、紙1枚ごとに集中し、切り

替えます。射撃も弾1発1発に流れがあり、ルーティーンがあります。そんなところが書道と似ているように思います。

常に心がけているのは、いつでも自分の射撃に集中すること。射撃って、自分がどれだけ射撃に注

ぎ、どれほど射撃のために生活してきたかということがすべて試合

に影響してくる競技なんです。努力が見えやすいんですね。そこが

私にとつての射撃の魅力。パリまでまもなく1年を切ります。出場権獲得にはあと4回チャンスがあります。1試合、1試合できる準備をしっかりと

しながら強く信じて、自分にできる精いっぱいをやっていきます。



平田しおり

ひらた・しおり

1999年11月6日生まれ。石川県能美市出身。根上中一金沢伏見高一明治大。ALSOK所属。15歳で射撃を始める。東京2020オリンピック出場。2019アジア選手権3位



吉岡 大

よしおか・だい

1985年12月14日生まれ。京都府長岡京市出身。長岡中—京都両洋高。京都府警察所属。23歳でピストルを始める。東京2020オリンピック8位。2022WCチャンウォン優勝

ています。目からビームが出るイメージかな(笑)。

射撃は動きの少ない競技なので運動能力はあまり必要ないというようなことを聞きますが、そんなことはないですね。センスも大事ですけど、体力と運動能力は必要。そして、なにより気合と根性(笑)、これに尽きますよ！ 10点に当てるんじゃないくて、10点にねじ込む。強気でいく。当たる。と信じるものが強いと思いますね。

この気合と根性を、私は学生時代にやってきたラグビー、レスリングで培いました。こうした競技で壁を乗り越えてきた経験があったから、トップまで上がってこられたと思っています。

射撃では、自分がやるべきことをやったら結果(成績)が出る。という考えの方が多いと思います。私は対戦競技で生きてきたので、対戦前から強い選手というのはいたいわかります。その選手をマークして、負けないぞという思いながら試合に挑みますね。気合と根性で！

パリまではとにかくチャレンジャーとして頑張っていくしかないと思っています。『井のなかの蛙』にならないよう、創意工夫して頑張っていけます。

気合と根性

「緊張には強いつもりだったんですが、緊張の度合いが違いました。精神に直接ダメージを受けているような感じでしたね(苦笑)」

東京2020オリンピックで8位入賞を果たした吉岡大選手は、初出場した夢舞台をこんなふう振り返った。

オリンピックに対して先入観があったからかもしれません。それを加味しても、やはりこれまでの大会とは一味違いました。国を背負っている。という部分が大いからかと思えます。

思い起こせば、東京2020オリンピックの開催が決まったのは、私がラピッドファイアピストルを

始めた頃でした。リオデジャネイロまではあと2年くらいしか時間がなかったの、そこを目指すのはさすがに無理だと思い、東京大会には絶対に出てやるぞ、という気持ちで頑張ってきました。そして、迎えたオリンピック開催年。ご存知のとおりコロナで延期になりました。不謹慎な言い方になってしまつて恐縮ですが、この出来事が私にとってはいい流れとなりました。おそらく、それがなければ私は出場できなかったでしょう。最終選考会が遅れたおかげで1年間、2人のライバルたちと切磋琢磨する時間ができたからです。この日々が気持ちを強くし、成長させてくれたと思います。

本番では、前半が終わった瞬間、これがオリンピックなのか！と実感させられました。今までにない緊張を味わいました。結果は8位。他種目ならファイナルに進める順位ですが、ラピッドだけは上位6名まで。残念ながら、ファイナルに上がれず、自分自身に不甲斐なさを感じました。ただ無観客試合のなかで、休憩中のボランティアの方たちが見に来てくれて、応援してくれた。そこにオリンピックの素晴らしさを感じましたし、そんなボランティアの方々の存在を知ることができたこともオリンピックで得られた収穫だと思っています。

現在、日本のラピッド強化指定選手は、吉岡選手を含めて5人。銃刀法の関係でピストルの競技人口は非常に少ない。

「24歳という外国人選手にラピッドを何年やっているのか聞いたら、10年っていう返事が返ってきました。いまの私より競技歴が長いんです。それは強くなりますよね」と苦笑した。

私にとってラピッドの魅力は「尽きない探究心」といったらいいのかな。8秒射だったら8秒のうち5発撃ちきる、6秒射は6秒間5発、4秒射は4秒で5発撃ちきるんですが、なんでこんなに外れるんだろう。なんでここに弾着が固まるんだろう。ということを考えるのが楽しい。振り上げて撃つだけの競技なんです。ラピッドをいかに攻略するか。奥が深く難しい。そこを考えることがおもしろいんです。しかも、装薬ピストルなので、迫力がありますよね。引き金を引くときは、見た瞬間に目から銃弾が出るイメージで撃つ

どうにかなる

持ち前の楽天的な性格で、水田光夏選手は人生を歩んでいる。

中学2年生で難病「シャルコー・マリー・トゥース病」と診断されたときもそうだった。医師の説明をまるで「他人事のように」聞き、「どうにかなるだろう、と思った」と言う。

診断されてから半年経たないうちに車椅子になりました。でも、日常生活は思ったより困ることはなかったですね。ただ3歳からクラシックバレエをやっていて、踊ることが好きだったので、それができなくなることが一番ショックというか、私のなかで大きかったですね。

ライフルを始めることになったのは、パラリンピアンの方の講演会

がきっかけです。そこで初めて射撃という競技があるということを知りました。当時、車椅子になつて学校と自宅との往復だけだったので、なんでもいいから始めないと。このまま何も変わらな過ぎないってしまふ、と思うようになってしまった。といつても、スポーツは得意じゃなくて、もともと体を動かすことは嫌い。踊りが好きっていつておいて矛盾しているような気がしますが（苦笑）。射撃については、それ何？っていうところからのスタートで、銃を撃つんだ、撃つてみたいなって。動かなくていいスポーツだったことが大きいかもしれませぬ。

またちょうどオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決まったときだったんですね。

素人だったので、パラリンピックに出場するために必要なことがたくさんあることも知らず、「それならスポーツもアリかな」という軽い気持ちで始めました。

最初にやったのはビームライフルです。10点のところ当たると王冠が光るのがおもしろくてやっていったという感じでした。でも、あくまで趣味で、月に2回くらい行くこともあれば、2、3か月に1回くらいということもありました。本格的にやるようになったのは、18歳でエアライフルの所持許可を取得できるようになることがきっかけです。すぐに銃を購入したんですが、どうやって弾を装填するのか、どうやって撃つのか、まったく知らなかった（笑）。ビームライフルの体験会で出会ったコーチが、「ライフルをやりたいくなったらなんでも聞いてね」と言ってくれたことを思い出し、連絡をとって「所

持許可をとって銃もあるので、撃てるようにしてください。どこへ行ったら撃てるんですか」と。そんなスタートでした。

そこからの成長は目覚ましく、1年後に全日本選手権に出場して2位。強化選手となり、東京2020パラリンピックの出場枠を自力で取得して、代表選手となった。

しかし、その大会がコロナで1年延期。成長真つ盛りの彼女は、練習時間が増える好機ととらえ、本番に臨んだ。

結果として、延期は私にとって好機とはいきませんでした。1年の間に病気が進行し、呼吸がしづらいうという症状が新たに出るようになってきていて、それが試合中に出てしまいました。その時点ではまだ対処法が見つかっておらず、

症状が出たら発作のような感じになり、止めようがありませんでした。だから、試合の後半は覚えていません。

いま振り返ってみると、東京大会は出場することが目標になっていました。出られたことで半分満足してしまっていた自分がいました。でも、出場するだけではダメだということを、出場して学びました。コンディション調整も含めて、もっと準備できることがあったのではないかと気が持ちも湧いてきました。以来、次のパラリンピックに向け、競技用具や競技姿勢を改良しながら日々練習しています。

射撃という競技は、自分の身体にすごく意識を向けさせます。止まっているとき、狙っているとき、どこかに力が入ってないかって意識している。練習時間は私にとって、自分自身と向き合う時間になっているのかなって思います。

射撃に興味を持っていただけると、これから射撃の魅力を伝えていきたい。特に同世代の仲間が増えてくれると嬉しいです！



水田光夏

みずた・みか

1997年8月27日生まれ。東京都町田市出身。桜美林大学卒。白寿生科学研究所所属。中学2年、末梢神経疾患の難病の「シャルコー・マリー・トゥース病」と診断され、右上肢（肘から先、左手指先）、下肢（両ひざ、先）麻痺となる。17歳でビームライフルを始め、19歳でエアライフルに転向。2017年全日本障害者ライフル射撃競技選手権2位。2019年全日本障害者ライフル射撃競技選手権優勝。東京2020パラ大会、10M AR混合伏射SH2クラス32位。2022年WCチャンウォン5位。



覚悟

北京・ロンドン・リオと3大会のオリンピックに出場。世界選手権では2種目で金メダル獲得という実績の持ち主である。

確かに3大会出場しましたが、思い出に残る大会というのはないですね。結果を出していないので。射撃界に何の恩返しもできなかった。引退を決めたのはまさにコロナの時期でした。自国で開催されるオリンピックですから、東京大会はもちろん出たいと思っていました。それが1年延期になったでしょう。自分と向き合ったとき、これまでオリンピックでメダルをとる覚悟を持ってやってきたのですが、その覚悟が自分のなかで揺らいできてい

ことに気づいてしまったんです。自分のなかでその「覚悟」が99%あったとしても、欠けている1%が許せない。100%の覚悟で臨めないのであれば、国を代表して出るべきではない。これはもう引き際だなと思っ

たんですね。そう思ったら早かったですよ。引退発表こそしませんでした。2020年のゴールデンウィークの頃には協会に引退を伝えていました。選手たちに迷惑がからないよう、早ければ早いほうがいいかと思いましたがね。

警察に入り、拳銃特別訓練員に選ばれ、訓練が仕事となった。しかし、当初は嫌だなという思いしかなかったという。

警察学校でもたいしてうまくなかったんですよ。そんな自分がなぜ選ばれたのか、わからなかった。そもそも警察官になりたくて警察に入ったので、若い頃は仕事を覚えたいという思いが強かったです。やはり経験しないと学べないことがたくさんありますから。同期は現場で仕事を覚えていくのに、自分が向かうのは射撃場。なぜ自分は射場に行くのだろうか。というそんな感覚でした。だから、当然落ちこぼれ。早くこれが終わって、職務に戻りたいと思っていました。その気持ちが変わったのは、確か3年目です。そんな思いでやってきたから、訓練にも身が入っていたい。そこを当時の指導者から指摘されました。それが発奮材料となり、「結果を残してやめよう」と。元来、負けず嫌いなんですよ(苦笑)。そこで覚悟を決めてやるようになり、成績が伸びていくように

松田知幸

まつだ・ともゆき

1975年12月12日生まれ。神奈川県出身。横浜商科大学高校卒。神奈川県警察所属。北京2008・ロンドン2012・リオ2016とオリンピック3大会に出場。北京では、日本男子ピストルで24年ぶりの8位入賞を果たし、2010世界選手権では50Mピストル、10MAP二つの種目を制して、国内最初のロンドンオリンピック代表内定第1号選手となった。

なりました。

競技用のエアピストルを始めたのは、それから3年後です。26歳のときでした。またまた競技者として最後尾からスタートし、2

了承を得て、選手強化委員会の部長という形でナショナルチームのお手伝いをさせていただいています。

チが入る。試合でも「決勝に残ると覚悟を決めて、試合に臨む」(松田氏)。飄々とした語り口の向こうに、並外れた集中力と努力があったことは間違いない。

現在、協会から声をかけていただき、神奈川県警の

年目にはナショナルチーム入り。それがちょうどアテネの選考会直前だったんです。まだ当時は代表になれるようなレベルじゃなかったのですが、先輩たちや海外の選手を間近に見て、オリンピックを意識するようになって。そして、次の北京に出場しました。そこから目標が変わりました。それまではオリンピックに出ることが目標でしたが、北京が終わり、『メダルを獲得すること』が目標になった。でも結局、メダルはとれずに終わりました。そこに対しては後悔といますか、申し訳ない気持ちでいっぱいですね。

「覚悟」。これを決めたとき、スイツ

自分は気持ちで動くタイプで、しかも短気で何事も長く続く性格じゃない。飽きっぽくてすぐに投げ出してしまっんです。その自分がなぜこれほど長く射撃を続けることができたのか。射撃のどこにそこまでの魅力があったのか。正直、わからない(苦笑)。ただ、これまでの人生のなかで、トップに立ったことがなかったんです。学生時代も運動はかなり自信があったし、バレーボールをやっていた経験けど、そこでもトップになった経験はありません。そんな自分が射撃ではトップに立つことができた。勝つことができた。自分でもやれる、努力すればやれる、そんな気持ちがかこまでこられた原動力だったのかも知れませんね。

すべての スポーツに エールを

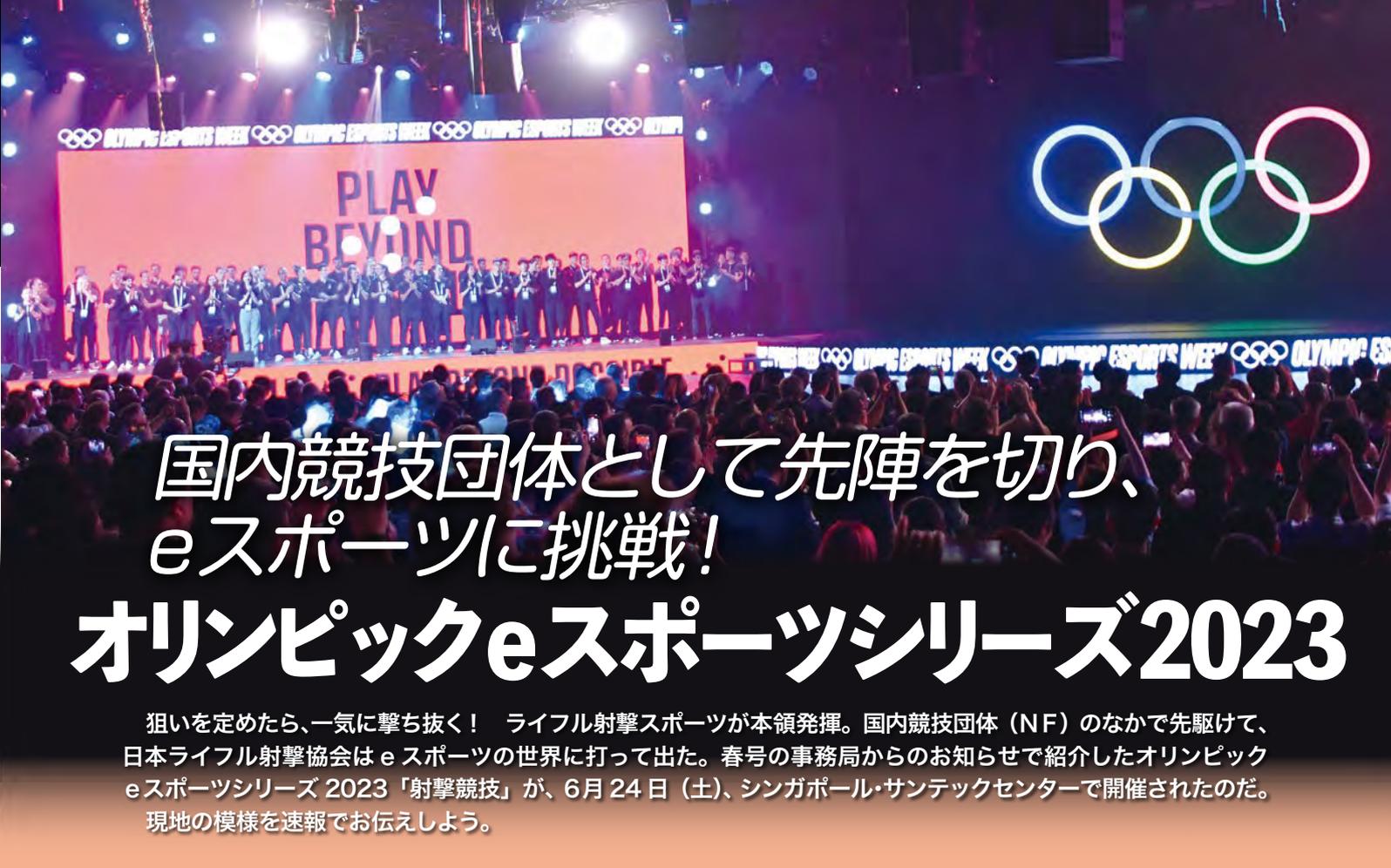
スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ





国内競技団体として先陣を切り、 eスポーツに挑戦！ オリンピックeスポーツシリーズ2023

狙いを定めたら、一気に撃ち抜く！ ライフル射撃スポーツが本領発揮。国内競技団体（NF）のなかで先駆けて、日本ライフル射撃協会はeスポーツの世界に打って出た。春号の事務局からのお知らせで紹介したオリンピックeスポーツシリーズ2023「射撃競技」が、6月24日（土）、シンガポール・サンテックセンターで開催されたのだ。現地の模様を速報でお伝えしよう。

オリンピックeスポーツシリーズとは、国際オリンピック委員会（IOC）と国際競技連盟（IF）、ゲーム会社との連携から生まれたバーチャル・シミュレーションスポーツ競技大会のこと。その根幹をなすeスポーツは、コンピューターゲームやビデオゲームに端を発しているという。

ゲームといえば、シューティングを抜きにしては語れない。ここにいち早く着目したのが、当協会の松丸喜一郎会長だ。「将来的なことを考え、若い人たちを射撃の世界に取り込むにはどうしたらいいのか。それにはやはり、彼らの文化を取り入れるのが一番。若い世代が夢中になっているゲームの多くはシューティングゲームで、射撃に由来を持つものが多い。的を狙って撃つという行為は人間の本能ですから、シューティングゲームが世界的に人気があるというのはうなずける話なんですよ」

狙いを定めるとすぐに動いた。

協会内にマーケティング委員会を立ち上げ、国際オリンピック委員会（IOC）国際射撃スポーツ連盟（ISSF）、ゲーム会社らと何度も交渉を重ね、ゲーム業界内では知らない人はいないというオンラインゲーム『フォートナイト』のEpic Games社の協力を得て、オリンピック向けのゲームソフトを開発。IOCの承認を受け、実現した。これを中心となって進めたのが、ISSFでも、ゲーム業界でもなく、日本協会だ。

この裏には、協会が抱える切実な問題がある。「日本には銃刀法という厳しい規制があり、どれほど努力を重ねても、会員を増やすことには限界があります。このeスポーツを射撃の入り口として、新たな射撃の仲間を増やしていけることを願っています」（松丸会長）

今後、ゲームユーザーを会員に迎え、新しい射撃界の形が誕生するのか。新たな挑戦は始まったばかりだ。



マーケティング委員会の面々。他運営を支えた日本人スタッフ



世界のフォートナイト



日本からは高校生2人が参戦。惜しくも決勝進出とはならなかった



特別寄稿

初の「オリンピック・eスポーツ・シリーズ」

共同通信社記者 **きくうら ゆうすけ**
菊浦 佑介

照明を落とした空間に色とりどりの光が放たれ、大音響と軽快なMCが盛り上げる。天井部には、オリンピックマークが燦然と輝いた。国際オリンピック委員会（IOC）が、将来的なオリンピックでの実施を見据えて初めて開催した「オリンピック・eスポーツ・シリーズ」が6月22～25日、シンガポールで開かれた。華やかな演出のもとで熱戦が繰り広げられ、オリンピックの新たな姿を垣間見せた。

2021年に「オリンピック・バーチャル・シリーズ」として開かれたが、対面形式で開催されるのは今回から。「オリンピック」の名の下に行われた初の試みは、各界の注目を集め、日本からも政府や競技団体、パブリッシャー、国会議員など、多くの関係者が詰めかけた。

舞台はシンガポールの大規模国際会議場「サンテックセンター」。IOCが選んだ野球やアーチェリー、テコンドーなど10競技が行われ、その他さまざまな競技のエキシビジョンや展示・体験ブースが設けられた。射撃競技としては、今大会用の特別仕様で戦闘ゲーム「フォートナイト」を、タイムトライアル形式で実施。人気ゲームとあって、試合前から会場は熱

気に包まれた。世界のトップ選手が集まり、すばやい反応で次々的を射貫くと、そのたびに大きな歓声が上がった。

eスポーツに力を注いできた日本協会の松丸喜一郎会長は「発端は危機感」と語る。世界的な銃規制強化を背景に、普及が難しくなっているなかで、若者へのアプローチとしてeスポーツを活用しようと、体制整備を進めてきた。競技への入り口としてeスポーツを活用する動きは、射撃に限らず増えて来つつある。

IOCが今後、オリンピックで採用する競技を選ぶにあたり、国際競技連盟の積極的な関与は必須要件になるとみられる。ゲームメーカーがリードする競技もあるなかで、射撃は日本協会、そして国際競技連盟が主導しており、一つのアドバンテージとなりそうだ。

オリンピックでの実施を巡っては、そもそもスポーツか否かとの議論や、依存症対策など課題もまだまだある。しかし、今大会の活況も踏まえ、若者を取り込みたいIOCは近い将来のオリンピックでeスポーツを実施すべく、検討を進めるとみられる。もはやこうした潮流にはあがえず、各競技はいかにeスポーツとうまく向き合い、相乗効果を生み出していけるかを考えていく必要があるだろう。

■ Meyton(マイトン)電子標的システム



測定精度**1/10mm**を実現した
世界最高精度のシステム

192本の赤外線レーザーが交差することで全ての測定範囲において

1/10 mmの測定精度と
1/100mmの分解能を実現
し比類なき精度を実現。



Meyton(マイトン)電子標的 導入射撃場 (順不同) :

新潟県立胎内ライフル射撃場(10m,50m)、福井県立ライフル射撃場(10m,50m)、宮城県ライフル射撃場(10m, 50m)、神奈川県立伊勢原射撃場(10m,50m)、くりはま花の国エアライフル場(10m)、茨城県菅ライフル射撃場(10m,50m)、長野県中尾山射撃場(10m,50m)、沖縄県ライフル射撃場(10m,50m)、荒川区総合スポーツセンター(10m)、慶應義塾大学(50m)、中央大学(10m,50m)、日本大学(10m,50m)、明治大学(10m)、その他高校・大学多数導入

※メンテナンス (導入：國友銃砲火薬店様)：大阪府能勢町ライフル射撃場(10m,50m)、同志社大学(10m,50m)
國友銃砲火薬店様設置他射撃場につきましてもメンテナンスを行いますのでお気軽にお問い合わせください。

有限会社 三和管財

〒277-0862 千葉県柏市篠籠田1326 TEL: 04-7143-6122 Fax: 04-7147-0745

Meyton社 / Noptel社 / Mantis社 / HoRa社 輸入代理店

未来を語ろう

射撃競技の現在地と、これから

普及・育成・強化を 一本の線で結び、 射撃競技の未来へ歩む



「ライフルスポーツ」リニューアルを記念して、日本ライフル射撃協会会長、選手強化委員長、日本パラ射撃連盟理事、現役選手で開催した座談会。前編では、共生スポーツとしてのライフル射撃を考え、未来図について語っていただきました。今回は前編では紹介しきれなかった「育成・強化」に関する話題をご紹介します。（座談会収録：4月4日）

「私もいま、現役だったらよかったな」（田口）

——ここまで共生スポーツとしての射撃競技とは、また、それを広めるためにはどうしたらいいか、みなさんにお話いただきました。同じように「強化・育成」も重要なテーマだと思います。東京2020オリンピック・パラリンピックを機に、選手強化において何か変化はありましたか。

田口 オリンピック前後でいうと、この射場があるナショナルトレーニングセンター（NTC）ができたことが一番大きいかと思います。

田口 私もそう思います！ここができる前はJISS（国立スポーツ科学センター）に射撃場がありました。そこはオリンピックのための建物ということで、パラリンピックの競技は入っていませんでした。現在はオリンピックもパラリンピックもスポーツ庁の管轄ですが、当時は、オリンピックは文科省（文部科学省）、パラリンピックは厚生労働省の管轄でした。建物も障がい者用には考えられていない設計でしたし、私たちパラリンピアンには使用できない場所でした。

松丸 NTCって大きく二つの棟があるんですね。本棟をウエスト、射場があるこの棟をイーストっていいですが、ここイーストは東京2020に向け、オリパラ一体となってやろう、という方向に国の方針が決まってからできた建物です。とりわけパラリンピックをメインに考えたトレーニングセンターにしようということで、パラリンピアンのみなさんにも使い勝手がいいようになっていきます。

田口 建設前から日ラ（日本ライフル射撃協会）とパラ射撃連盟がお互いの希望を伝えていたので、パラアスリートも利用可能な施設になりましたね。いま、私も現役だったからよかったのになってつくづく思います（笑）。

松丸 まさか、地下1階のフロアすべてを射撃用にしてもらえるとは思っていませんでした。ここまでしてもらって嬉しいと思うと同時に、メダルをとらなければ、というプレッシャーがずっしりとききましたね（苦笑）。NTCに入っている競技で、メダルをまだとっていないのはうちだけじゃないかな。だから、佐橋さん、パリオリンピックはよろしくね。

佐橋 そんなこと、初めて聞きましたよ（苦笑）。

「私たち二人はポテンシャルアスリート育成の恩恵を受けている世代」(岡田・山田)

——現役のお二人は強化に対してどのような思いがありますか。

岡田 東京大会まででいうと、私たち二人は従来の『メダルポテンシャルアスリート(MPA)』(※注)と育成の恩恵をとても受けている世代だと思います。私の少し上の世代はその恩恵が受けられなかったそうで、「うらやましいな」って言われることがありますから。若手選手を育成・強化するというところで、海外に出させてもらいました。その若手育成の枠があったからこそ、初めてのワールドカップは、レギュラーとは別の枠で参加することができました。

山田 私も岡田選手と同じで、メダルポテンシャルアスリートの制度がなかったら、ここまで強くなることはなかったのかなと思います。私の初めての海外は、メダルポテンシャルアスリートのメンバーと一緒にいかせていただいたブルガリアなんですけど、その射場にマリア・グロジエワ選手(ブルガリア)という有名なメダリストがいらっしゃったんですね。その方が言葉もわからない私たちに

でも優しく接してくださいって。その経験が、強くなりたいって思っただきかけでした。

——それまでは選手の年齢層が高かったということでしょうか。

松丸 以前は年齢に関係なく、選考会やランキングを見て選手を選び、強化指定するという方法をとっていました。ロンドンオリンピックのあと、話に出てきたメダルポテンシャルアスリートという国の制度を導入しました。このおかげで、若い選手を派遣できるよくなりました。

佐橋 この強化ですが、今年、大きく見直しました。これまで強化では、このメダルポテンシャルアスリートこと『MPA部会』、発掘・育成に関する『ジュニア育成委員会』と、二本立てで進めてきました。それを今年4月、『アスリートパスウェイ要綱』と名称を変え、普及・発掘・育成から強化まですべて一本の線で結び、選手強化委員会としてやっていくという方向に形を変えました。社会全体、日本のスポーツ全体の考え方も相当変わってきたので、それに合わせたものに進めていく必要があると考えたからです。

松丸 我々協会が年少のところから積極的に関わっていく、という

ことですね。東京大会が終わり、まさに今年から動き出したところまだまだこれからですが。

「大きな変化は選手たちの意識」(佐橋)

——世界との差はどうでしょう。

松丸 最近、近づいていますね。先日のワールドカップ(インドネシア・ジャカルタ)で岡田選手が金メダルをとりましたし。

——おめでとうございます！

岡田 ありがとうございます(笑)。

松丸 エアライフルでワールドカップ優勝って、うちの協会にとっで初めてなんですよ！ピストルでは、ラピッドファイアで吉岡(大)選手が昨年のワールドカップ(韓国・チャンウォン)で優勝しています。こうした活躍は、近年の強化が実ってきた結果かと思えますね。

——岡田選手、そのあたりはいかがですか？

岡田 そうですね。東京オリンピックまでとパリ大会の選考方法、出場枠の獲得方法が変わりました。これまでだったら、いま開催しているワールドカップで、クォータープレイス(QP ※注2)を配っていたんですけど、世界選手権やア

ジア選手権を含む予選大会だけになったので、そこに焦点を当てればいいという状況になったんですね。そのおかげで、いまは練習期間、強化期間に充てられるようになったかなと思っています。

佐橋 去年から今年にかけての1年で、選手たちの考え方、意識がだいぶ変わったように思いますね。ファイナルに残るのは当たり前だ、とみんなが考えるようになってきたんです。ファイナルに出るところから、ファイナルをどう戦うか。選手の求めるもの、目標が上がってきたというわけですね。

——その要因は？

佐橋 いろいろありますが、外国人の非常に優秀なコーチの指導のおかげだと思います。ファイナルに残るのは当たり前、そこからの戦い方を考えましょう、という方向に選手たちの意識を変えてくれました。そして、このNTCという練習環境ですね。

「銃器を扱うものとして、これからも社会の信頼を裏切らないように」(松丸)

——そろそろ時間が迫ってきました。この座談会で、共生スポーツとしての射撃の未来が少し見えて

きたように思います。では、その射撃の魅力とは、みなさんにとってどこにあるのか。よく聞かれる質問かと思いますが、改めてお聞かせください。

岡田 これはよく質問されるので、その度に考えるんですけど、すぐ忘れちゃうんです(爆笑)。答えというより、ただの感覚なんですけど、この射撃という競技はトップを目指しやすい、という感じですね。私は21歳から始めて25歳でオリンピックに出ました。学生大会から全日本、ナショナルメンバーと、短い期間で少しずつ戦う場所をあげていった結果です。私は水



泳をやっていました。水泳ではこんなふうにはいかなかった。チャンスがあるところが射撃の魅力かなと思いますね。

山田 身長が高い、低い、体ががっちりしている、細いといったことは関係ない。70歳でも競技はできますし、小学生でも試合には出られます。そういった制限がない、誰でもできるところがやはり射撃の魅力だと思います。その魅力はまって、高校野球のマネージャーとして選手を支えるはずが、なぜか自分がプレーヤーになってしまいました(笑)。

田口 アスリートとしての立場でいうと、射撃は自分との戦いだということがすごく好きですね。相手の技や出方を考える対人競技ではなく、自分が何点出すか。自分が精いっぱい頑張れば、そこに結果がついてきてくれる。その結果が金メダルなのか、銀メダルのか、入賞なのか、というところが私の性格には合っていたのかなと思います。

——パラリンピアンとしての立場からはどうですか？

田口 山田選手もおっしゃったけど、本当に誰もができるんですね。実銃は持てなくても、ピームライフルを使えば、いろんな人、

視覚に障がいがある人も、聴覚に障がいがある人も、知的障がいのある人も、誰でも工夫すれば、射撃が楽しめます。私自身を振り返りますと、射撃をやってきたことで未来が見えました。できることがあることが嬉しかった。射撃体験にたびたび参加させていたのですが、当るとみなさん嬉しくて、素直に喜んでくれます。そこが射撃の魅力なんじゃないかなと思います。

佐橋 みなさんの話を聞いていて考えたんですが、基本的には一人でできるスポーツなんです。試合となればもちろん複数人いなければできません。一人で考え、自分の考えでチャレンジできる。そこがすごくいいと私は思いますね。だから、一人でやるのが好きな人は、のめり込む。私なんかそうじゃなかったはずなのに、結局この道を選んでいくし(苦笑)。

——座談会では変えていく、変わっていく話が多く出ました。最後に会長から、変えてはいけないところとは何か。お聞かせください。

松丸 我々競技者は鉄砲という非常に危険な武器を使っているにも関わらず、事件事故というものを起こしていません。それは徹底し

て安全管理というものを我々が学び、工夫しているからだと思えます。やっぱりここだけは社会の信頼を裏切らないよう、しっかりと堅持していかなければならないことです。

魅力というよね。みなさん、いまから射撃を始めても、トップアスリートになれる可能性があるということですね。私は最近、若い頃やってたゴルフを始めたんですけど、こんなにも飛ばないのかと(苦笑)。やはり、筋力も体力もなくなるので、こうした競技を若い人たちと一緒にやるのはムリなんです。でも、射撃は何歳でもできます。オリンピック史上で最高齢のメダリスト選手は、射撃の選手です。60歳を超えてもメダルがとれるんです。だからね、私もこれからピームライフルを始めようかなと思ってるんですよ、密かにランク入りを狙ってね(笑)。

注①「MPA(メタルポテンシャルアスリート)選手」とは、将来的に日本を代表し、国際競技大会においてメダルを獲得しうる選手の育成を図るために指定された選手をいう。MPA(メタルポテンシャルアスリート)指定選手等編成基準要項、平成28年度版より

注②クォータープレイス(QP)オリンピック出場枠のこと。パリ大会の出場枠は2022年8月14日から2024年6月9日までで開催される国際射撃スポーツ連盟(ISSF)が指定した選手権「バクー世界選手権」アジア選手権(チャンウオン、ジャカルタ)、最終オリンピック予選選手権で割り当てられる。ワールドカップが対象から外れたため、スケジュールに空きができた。

Profile

岡田直也

おかだ・なおや
1990年10月10日生まれ。岡山県出身。ALSOK所属。リオデジャネイロ2016、東京2020オリンピック代表(AR)。2023WCジャカルタ優勝

山田聡子

やまだ・さとこ
1995年2月26日生まれ。滋賀県出身。自衛隊体育学校所属。東京2020オリンピック代表(AP)



山田聡子

田口亜希

岡田直也

佐橋朋木

松丸喜一郎

松丸喜一郎

まつまる・きいちろう

1954年5月19日生まれ。東京都出身。慶應義塾大学卒。日本ライフル射撃協会会長。2019年から2年間、日本オリンピック委員会(JOC)副会長も兼務。国際射撃スポーツ連盟業務執行理事。アジア射撃連盟副会長。

佐橋朋木

さはし・ともき

1971年7月28日生まれ。東京都出身。明治大学卒。明治大学監督を経て、日本ライフル射撃協会強化委員会委員長

田口亜希

たぐち・あき

1971年3月12日生まれ。大阪府出身。アテネ2004(7位)、北京2008(8位)、ロンドン2012パラリンピック出場。日本オリンピック委員会・日本バラ射撃連盟・日本ライフル射撃協会理事。パラサポ推進戦略部ディレクター

New Model !!



上段：Model 900 Alu MESHPRO
下段：Model 900 Alu

Feinwerkbau GmbH Model 900 Alu

商品に関するお問い合わせは、お電話・メール、または公式LINEまで！！

株式会社 銀座銃砲店

〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目
13番7号(新保ビル2階)
TEL:03(6226)6133 FAX:03(3543)1444

公式SNSで

お得な情報発信中!!

右記QRコードよりチェック!!



facebook



Instagram



TWITTER



友達追加はこちら!!



ホームページより
カタログをダウンロード
できます。





ライフル学

アスリートのための視覚講座

その1

今回のテーマ

スポーツにおける眼と脳の役割

みなさんは射撃をするとき、標的がはっきりと見えていますか。競技でよい成績があげられない人のなかには、標的がはっきりと見えない人も多くいるようです。そのような人は、眼の問題を解決すると標的がはっきりと見えるようになって、よい成績があげられるようになります。

今回から4回にわたって、射撃競技でいかに眼と脳が重要であるか説明したいと思います。第1回目の今回は、「見えている」ときに、眼と脳がどのように働くかについてお話します。

スポーツで視覚はとても重要

私たちは、視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚などから得られた情報を元に生活をしています。なかでも視覚は外界の情報の約8割を取り入れているといわれていて、生活をすすめるうえでもっとも大切な感覚です。スポーツのような、普段の生活より短時間に大量の情報を取り入れなければならない場合、視覚はさらに重要になります。とはいえ、スポーツにはさまざまな競技種目があります。種目特有の競技特性があるため、選手に必要な視覚情報は種目によって異なります。例えば、陸上競技のランナーにとつ

て、視覚情報には勝敗を決定する要素が少ないことからあまり重要視されていません。一方、球技や射撃競技では、視覚による情報には勝敗を決定する要素が多いので、とても重要です。射撃選手がプレーしているとき、眼から情報を得て、その情報を脳に送っています。脳はそれを分析し、標的に弾が当たるように眼や全身の筋肉・関節に指令を出します。そして、実際の動きの情報も脳に戻され、先に出された脳からの指令と比較されます。実際の動きと脳からの指令の間に誤差があれば、脳はそれを修正し、再び全身の筋肉や関節に指令を出し

見るためには眼の機能が非常に重要

眼には視力・視野・調節力・両眼視機能・色覚・光覚・眼球運動などの機能があります。それらを使って眼は周囲の情報を集めています。これらの機能に問題のある人がスポーツをすると、眼が情報を十分に集められないことから脳は周囲の情報を分析できず、プレーの目的に合った動作を身体に起こさせる指令を出せません。そうなると、脳は眼に対し、しっかりとした情報を送るように再度指令を出します。眼はその指令を受けて、眼のさまざまな機能を働かせて、脳が十分に分析できるように情報を送ります。したがって射撃



ます。射撃選手の視覚と脳は、プレー中、これらの一連の作業を常に行っているのです(図1)。

脳は部分によって異なる働きをしている

簡単にいうと、脳は大腦、小脳、脳幹などからできています。眼からの情報は大腦に送られます(図2)。大腦は前頭葉、頭頂葉、側頭

図2 脳の構造

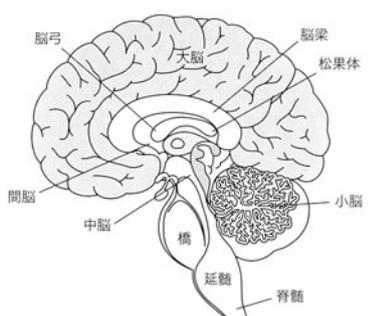
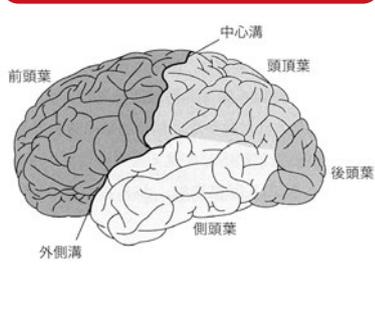


図3 大脳の区分



葉、後頭葉の4つに分かれ、それぞれが異なる役割を持っています(図3)。前頭葉は思考・学習・推論など、高度な精神機能や身体の動きに関

連があり、脳のなかでもっとも高等な役割をする部分です。頭頂葉は知覚・思考の認識や統合、身体に



Profile

枝川 宏
えだがわ・ひろし

北里大学大学院卒。医学博士。日本眼科学会専門医。日本スポーツ協会公認スポーツドクター。医療法人社団えだがわ眼科クリニック理事長。順天堂大・平成医療短期大・静岡産業大非常勤講師。国立スポーツ科学センター客員研究員。日本スポーツ振興センター スポーツ事故防止対策協議会委員。日本眼科医会 スポーツ眼外傷対策委員。東京都医師会 健康スポーツ医学委員会委員。日本ライフル射撃協会 医科学委員長。

関連のある部分、側頭葉は顔や形の認知や聴覚や味覚に関連する部分です(図4)。

図4 大脳の役割

	役割
前頭葉	思考・学習・推論・身体の動き
頭頂葉	知覚・思考の認識や統合・身体の空間認識・触覚
後頭葉	視覚
側頭葉	顔や形の認知・聴覚・味覚

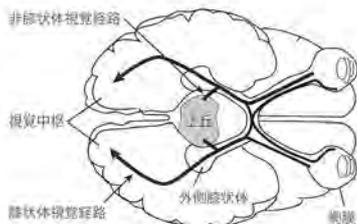
眼からの情報経路は二つに分かれる

眼から大脳に入った情報は、視覚の中核がある後頭葉へいく「膝状体視覚経路」と呼ばれる経路と、後頭葉へいかない「非膝状体視覚経路」と呼ばれる経路に分かれます。「膝状体視覚経路」は眼から入った情報のほとんどが通る経路です。私たちが「見える」と感じるのは、眼からの情報がこの経路を通り、後頭葉にある視覚を司る細胞が集まっている視覚中核に届いたときです。しかし、視覚中核では「見える」と感じますが、見ている物

が何なのか、どのように動いているかなどは理解できません。

眼から入った情報が後頭葉へいかない経路が「非膝状体視覚経路」です。眼からの情報の一部がこの経路を通りますが、後頭葉の視覚中核にはいかなないので、情報を細かく分析することができません(図5)。

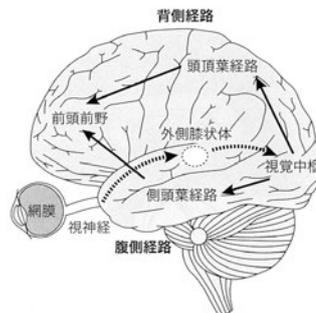
図5 視覚情報の処理系



後頭葉に届いた情報は前頭葉に送られる

「膝状体視覚経路」を通じて後頭葉の視覚中核に届いた情報は、さらに二つの経路に分かれて前頭葉に送られます(図6)。一つ目は頭頂葉を通る経路で、ここでは物の位置や動きを分析します。二つ目は側頭葉を通る経路で、ここでは物の形、色、質感を分析します。このように、後頭葉からの情報は情報の質によって二つの経路で前

図6 視覚情報の流れ



頭葉に送られ、そこで一つの情報になります。前頭葉にはその人が今まで経験した内容や知識などの記憶が蓄えられていて、後頭葉から届いた情報と前頭葉に蓄えられている記憶が照らし合わされて、はじめて私たちが見ている物がどのようなもので、どのように動いているかが判断できるのです。したがって、前頭葉に記憶されている経験や知識の蓄積の量によって、見ている物の状態を判断するレベルは違ってきます。経験や知識の蓄積が多い人ほど、きめの細かい情報を感ずることが出来ます。

この命令が頻繁に出されるとストレスを感じはじめ、その状態が続くと疲れてしまいます。射撃選手で脳や眼が疲れにくると、眼と脳の働きは悪くなります。その結果、選手は標的がしっかりと見えなくなってしまうので、競技能力を十分に発揮できなくなるのです。

まとめ

私たちの眼にはさまざまな機能があり、それらの機能を使って情報を収集。その情報が脳へ送られ、ほとんどが後頭葉に届きます。後



射撃選手の眼と脳ここがポイント!

射撃の選手は標的がはっきり見えること、引き金を引くことができた時の標的の見えかたとそのときの眼や体の動きを記憶しておくことが大切。そのためには、眼のコンディションを整えておくこと、練習や競技を通して経験したベストに撃てた時の視覚と身体の状態を記憶しておくことが重要。

出典：図2、図3、図5、図6 すべて『スポーツパフォーマンスと視覚 ～競技力と眼の関係を理解する』より (日本スポーツ視覚研究会編集、有限会社ナップ 発行)

2023年度

全日本ライフル射撃競技選手権大会 (10M AR/AP)

全日本選抜ライフル射撃競技大会 (50Mライフル共生種目)

公益社団法人日本ライフル射撃協会
NPO法人日本パラ射撃連盟

日時: 5月19日(金)~21日(日) 場所: 栃木県ライフル射撃場

国内大会でもっともグレードの高いG1カテゴリーの競技会が、5月19日から3日間、栃木県にて開催された。10Mエアライフル・エアピストル、50Mライフル3姿勢が行われ、共生大会にふさわしくジュニア選手、女性、ベテラン選手が活躍を見せた。その大会をレポートする。

ジュニア・女性・ベテラン射手が活躍



今年度最初のG1カテゴリー大会となる『2023年度全日本ライフル射撃競技選手権大会』/『2023年度全日本選抜ライフル射撃競技大会』が、栃木県ライフル射撃場で開催された。今大会は、昨年度末に行われた『全日本ライフル射撃競技選手権大会・オリパラ男女混合共生大会』に次ぐ『共生大会』である。

当日は130名を超える選手が出場。先の大大会は海外試合の関係で出場できなかったトップ選手たちも顔をそろえた。しかしながら、今大会はパラ射撃の海外大会と重なり、参加したのは1名だけ。オリパラが勢ぞろいとはいかなかったが、トップの男女が並んで競う試合となり、見ごたえたっぷりだった。

初日に行われたのは50Mライフル伏射(RP RMW)。29名の選手が出場したこの種目では、ファイナルは行われず、本選のみで順位を決定する形式がとられていた。優勝したのは三重県の山本拓生選手。0.1というわずかな差で清水綾乃選手が2位。3位には平田しおり選手が続いた。

続く2日目はエアピストル(AP)。63名の選手が出場した。強化指定選手がファイナルに顔をそろえるなかで、光ったのが内田翼選手(長崎県)。高校生ながらファイナルに出場した。残念ながら8位で試合を終えたが、高校生で全日本大会8強は、エアピストルでは初の快挙となりました。試合後、「ファイナルはめちゃくちゃ緊張しました。悔しいけれど、これがいまの実力。また頑張ります」とはにかんだ笑顔を見せた。

優勝したのはベテラン・楨山博登選手(静岡県)。強化指定選手の相澤ひかる選手(東京都)

が2位、東京2020オリンピック代表の山田聡子選手（埼玉県）が3位となった。

最終日はエアライフル（AR）とエアライフル3姿勢（R3P）が10Mと50M二つの射場で行われ、東京2020オリンピック代表の岡田直也選手（岡山県）、平田しおり選手（石川県）が登場。安定した力を発揮し、岡田選手はARで3位、R3Pでは7位の成績を取め、平田選手はAR、R3Pともに2位の活躍を見せた。試合後、「アゼルバイジャン帰りでアドレナリン切れです。頭が回らない（苦笑）。これで春シーズンは終了ですね。共生大会は楽しかったです。もう少しパラ選手がいるとさらによかったですね」と岡田選手。表彰式では持参のカメラで、カメラマンよろしく撮影会に参加し、周囲を和ませていた。

ARの優勝者は大学生の野畑美咲選手（大分県）。R3Pは松本靖世選手（熊本県）が制し、3位は島田敦選手（埼玉県）という結果となった。

大会を終え、改めて射撃競技に男女の枠も年齢差も関係ないことを感じさせられた。次回、より多くのパラ選手の参加に期待したい。

10M エアライフル **優勝**

ルーティンを崩さず、撃つことができた

のばた みさき 選手
野畑 美咲 選手（大分県）

今日はルーティンを崩さず、トリガーも遅れることなく、すぐに引くことができましたし、グッドショットを続けて撃つことができたことがよかったかなと思います。

また、今回出ているメンバーは、いつも一緒に練習したり、合

宿をしたりしている人たちが多くいらっしゃるので、あまり緊張せずにできたということも（勝因の一つ）あるかもしれません。ワールドカップなど、これから出る試合でも同じような感じできるように、練習に励みたいと思います。



写真中央

10M エアピストル **優勝**

攻めの射撃ができました

まきやま ひろと 選手
槇山 博登 選手（静岡県）

今回の勝因は攻めの射撃ができたことかと思います。“いい点を出したい、という欲が出ると、銃がちょっと揺れただけで撃てなくなります。今日も2回ほど弱気になりかけた場面があったのですが、最後の一発まで揺れても気持ちを入れて撃ってみました。そうしたら、わりといい流れになってきましたね。

私にとってのいい射撃、頭のなかにあるイメージに近づけることを心がけて撃っています。射撃の魅力は私にとって、大人になってからでもオリンピックという目指す目標ができ、それに向かって一生懸命になれたところ。これからもイメージどおりの射撃にチャレンジしていきたいですね。



前列、右から2人目

Close-UP クローアップ 現役引退

これまで培ったものを還元したい

北京・リオオリンピック代表
やました としかず 選手（徳島県）
山下 徹和 選手（徳島県）



3ヶ月ぶりに撃ちました。楽しかったですね。それまでは“点数を出さなければ、勝たなければ、という強い気持ちで、やらなければいけない目標がありました。今回は“みんなと一緒に競技を楽しみたい、という想いで大会に臨みました。やっぱりスポーツは楽しむものだったことを改めて感じましたね。

高校で射撃に出会い、いい指導者に恵まれて、中央大学から自衛隊体育学校に進んで23年間、競技に携わせていただき、この3月、引退をいたしました。

中学生まで水泳やバレーボールなどいろいろな競技をやってきましたが、どれも芽がでず、高校で射撃に出会い、ちょっとやってみたら、人よりうまくて、「俺って、こんな才能あったんだ」って（笑）。それがきっかけでした。

一番嬉しかった試合は初めて出場した北京

2008年オリンピック。その頃はオリンピックがどんなものかわからなかったんですが、現地に行って初めてどれほどすごい大会なのか。人生をかけてメダルをとりに行くのにふさわしい場所なのだということを知りました。そこから勝利にこだわって、翌年には日本記録を全部塗り替えて。でも、絶対に行けると思っていたロンドンには行けず。このときはさすがに射撃をやめようかと思ひ、引退を考えました。それでもまだ世界で戦えるという思いがあってリオに向けて再起して、これが最後と思って挑戦したんですが、この頃が成績面でも一番よかったように思います。本番もメダルには届きませんでしたが、自分のベストは出せたと思います。

今年2月、この試合で引退しようと決めてワールドカップに出場しました。成績は出せませんでしたが、自分の最後の全力が出すことができ、全然歯が立たないと思いましたけど、気持ちよかったですね。これからは、これまで培ってきたものを還元していきたい。このライフル射撃という競技の普及に、何らかの形で役に立てたらと思っています。

50M ライフル3姿勢 **優勝**

この結果を次につなげたい

まつもと やすよ 選手
松本 靖世 選手（熊本県）

全日本の大会で初めての優勝で、すぐには実感がわきませんでした。しかも、3姿勢ということで嬉しいですね。私は伏射と膝射はわりと得意で、課題は立射でした。10Mも50Mもどちらもなかなかうまくいかず、スランプ状態だったのですが、コートを更新したりするなど細かなところを変えてようやく立射が安定してきたことが、自信につながったような気がします。3姿勢は3つの異なる姿勢で競いますが、姿勢が違えば筋肉の使い方も呼吸の使い方、道具の使い方も違うので、楽しいですね。この結果を次の大会にぜひつなげたい。目標はオリンピックに出場してメダルをとること。頑張ります！

前列、右から2人目



栃木県ライフルスポーツ射撃協会

DATA 栃木県宇都宮市新里町乙1067
発足 昭和33年栃木県ライフルスポーツ射撃協会 会長
谷津 義男厳しい環境下にあっても、
栃木県射撃界の発展のために

栃木県ライフル射撃場は、『2022とちぎ国体』の開催が決定し、第1回目の昭和55年(1980)に使用したものを改修した施設です。この国体開催に至るまでには紆余曲折、いろいろとありました。

協会が発足したのは、昭和33年(1958)です。国体に選手を派遣するため、栃木県ライフル射撃協会を発足したと聞いています。まだその頃は射撃場も学生の射撃部もない状況でした。県初の国体開催が決まったことがきっかけでこの射撃場が完成。同時に、育成・強化のため、高校射撃部も必要ではないかという声が上がリ、県に働きかけ、真岡農業高校に県内初となるクラブができました。それが現在の真岡北陵高校です。

その頃はクレー射撃と合同でやっていました。いま、駐車場となっているところがクレーのフィールドでした。射撃場ができると隣の埼玉県から自衛隊体育学校の選手が練習や合宿に来るなど、トップ選手を間近に見たり、話をしたりする機会ができ、おかげで県内の選手のレベルが徐々にアップし、成績が全国規模になっていきました。

ところが平成16年(2004)、思いがけない不運に見舞われました。この射撃場を閉鎖しなければならなくなったのです。

原因は鉛公害でした。当時、環境問題として、鉛による公害が取りざたされていました。射撃では鉛弾を使用します。水質検査の結果、基準を超える数値ではなかったのですが、一度閉鎖し、2年後に環境庁から出る新たな基準値を待つて整備し直し、再開させるといふことになってしまったのです。間の悪いことに、閉鎖したとたん日本経済が落ち込み、県の財政も厳しい状況になり、射撃場の整備にお金をかけられる状況ではなくなっていました。

*

とちぎ国体で再開となるまで、約20年、近隣県のお世話になりました。から活動を続けてきました。もちろん、再開を手をこまねいて待つていたわけではありません。あらゆる努力を重ねてきました。

まず、この間に高校生の成績を保つこと、部員を減らさないことが重要な課題でした。そこで、射撃場の閉鎖を受け入れる代わりに、高校生の練習場をつくってほしいと県に掛け合い、真岡北陵高校に射撃場をつくってもらいました。

一方、閉鎖期間が続けば結構ほど、設備も老朽化してきます。使われない建物は傷みますし、雑草も生え、決して保安上もいいとはいえない状況となってきます。再開にあたり、この射撃場を地域の

みなさんがどのように考えているのか、しっかりと耳を傾ける、そして私たちの思いを伝えることが必要だと感じました。そこで、地元の自治会をはじめとして、みなさんと話をし、このまま閉鎖していいのかどうか。話し合いました。地元の方からはやはり、経済効果を考えれば再開してもらった方がいいというありがたい声をいただき、力を得て、合同で要望書を県に提出。残念ながら、射撃協会だけの単体での要望書では、希望は通らなかつたのではないかと思います。

*

このような再開へ向けた環境、雰囲気をつくるために力を合わせてやってきた結果が、昨年の国体につながったのではないのでしょうか。

とちぎ国体後、射撃に興味を持つてくれる子どもたちも増えてきました。高校生も4人ほど、部員が増える予定です。

とはいっても今般、射撃に対する周囲の目は厳しい状況になってきています。だからこそ、ビームライフルといった光線銃、レーザー銃に活路があるのではないかと、というのが我々の考えです。県には、障がいスポーツにも役立つものであることを理解いただき、平成元年から障がい者を対象としたビームライフルの体験教室を続けてきました。このビームライフルは、大学を卒業

栃木県出身選手

全日本のファイナルに
上がりたい藤平 卓也 選手
(R3P)

真岡農業高校の時代に射撃を始めました。最初は弓道部に入るのかと思っていたのですが、なんとなく射撃が気になって。練習場があるので基本的に毎日練習でした。すぐにハマって、射撃がやりたくて大学は関西に進みました。

地元に戻ってきてからも続けています。といっても、農業に携わっていますので忙しい時期、特に大会が増え始める春先は農繁期と重なるので、練習不足にはなりがちですが、農業も射撃も一人で黙々とやるところは似ているといえ、似ていますね。

私にとっての射撃の魅力は、目標に向かって練習を積み重ねることから得られる達成感というのでしょうか。そんなところに惹かれているような気がしています。

いまの目標は高校生のときに出場した国体にもう一度出ること、全日本大会などでファイナルに進出すること。頑張っていきます。

ビームライフルで射撃スポーツを始めましょう！

BEAM·RIFLE SHOOTING SYSTEM

ビーム・ライフルの特徴

- ビーム・ライフルの光源はキセノン管発光で、人体には影響のない安全な光です。
- 標的装置の設置は水銀灯、白熱灯、蛍光灯などを使用する体育館や教室で利用できます。



ビームライフル ジュニア用 型式 MBR-203J

この銃は3.0kgと軽量で、全長も小中学生などに合わせた入門者向けのモデルです。バットプレートは体格に合わせて、前後に調整できます。専用バッテリー、サイトセット、ハードケースが付属します。



ビーム・ライフル 型式 MBR-201

この銃はチークピースの調整を容易にした、 balanサー付の競技者向けのモデルです。

ビームライフル・システム



ターゲット装置
型式 MT-201



ディスプレイ装置
型式 MD-201L



プリンター装置
型式 MP-216

〔製造・発売元〕

=KOTO= 興東電子株式会社

本社 〒306-0232 茨城県古河市東牛谷 603-2

電話 0280-98-3387 FAX 0280-98-1180

http://www.kohto.co.jp E-mail: info@kohto.co.jp

ワールドカップ・バクー

開催地：アゼルバイジャン・バクー
 開催日時：5月8日（月）～15日（月）
 報告者：佐橋 朋木／選手強化委員長

RESULTS

ARM

岡田 直也（ALSOK） 6位

総評

今回のワールドカップは、世界選手権の前哨戦ということで66か国623名の選手が集まりました。中国・インドもフルメンバーでの参加となり、非常にレベルの高い試合となりました。そのなかで岡田直也選手がファイナル出場という結果を出せたのは大きかったと思います。ほかの選手ももう少しというところでした。

この時期のバクーは非常に風が強く、寒い状況でした。特に50Mは風旗が真横ではためている状況で、さらに方向も定まらずで非常に選手は苦労していました。点数的にも全体的に低い点数ではありましたが、

選手は準備をしっかりとそれぞれの試合に臨んでおり、これまでの海外遠征の経験が生きてきています。これからパリオリンピックのQP獲得試合が続きますが、しっかりと準備をして臨みたいと思います。

もりかわせいじ

森川清司 選手

試合は中盤まで我慢の射撃でした。5シリーズ目で感覚がつかめて最終シリーズに勝負をかけましたが、空回っていたと思います。アドバイスをくださったコーチたちには助けられました。次回の結果につなげたいと思います。

あいざわ

相澤ひかる 選手

バクーは気候もよく、とても過ごしやすかったです。そして今回も監督・スタッフのみなさんにサポートしていただき、試合に集中することができました。今後も自力を上げ、結果を残せるよう精進します。

しんぼゆうき

新保結希 選手

バクーでのワールドカップを体験して、視野を広げ射撃することの大切さを実感しました。大舞台で競技する楽しさを改めて知り、さらなる向上への指針を得られました。世界を感じられる貴重な機会をいただき感謝します。



総評

久しぶりにコロナ感染症規制のない大会が開催でき、礒部直樹選手の日本新記録、池袋賢一選手の日本最高記録、若手選手の参加とよいこと尽くしの大会でした。

選手の高齢化が進む大口徑射撃に若手選手が目を向けてくれたことは、日本ライフル界の未来に一筋の光を見たような喜ばしいこと。参加してくれた若手選手たちは、射撃の楽しさ、競技の魅力、大口徑射撃から得られる高度な技術について理解し、明確な目標を持ち、競技に取り組んでいます。これは自身の成長のみならず、後世への良い影響を与えることでしょう。そしてなにより参加者の笑顔がすごく印象的で、射撃は生涯スポーツであると実感しました。

いそべなおき

礒部直樹 選手

大口徑射撃は射撃の基本の凝縮です。ライフル射撃を行う上での原理原則を理解し、取り組む学びとして、大口徑射撃は競技力向上に有効で、さらには楽しいものです。

先輩方からは、練習場や試合会場でこれまでの経験から培った技術、情報や考えなどを教わるのができ、ここにも大きな魅力があります。興味のある方にはぜひ始めていただきたいと思います。

かやま たけし

嘉山 豪 選手

今後の目標は世界選手権に出場すること。世界のトップ射手と肩を並べて試合することで、実力がどこまで出せるか挑戦したい。また射手の観察、交流を積極的に行うことで、現在の一流選手のトレンドや大口徑射撃の魅力などを発信していきたいです。



2023ジュニアワールドカップ・ズール

開催地：ドイツ・ズール
開催日時：6月1日（木）～9日（金）



RESULTS

ARW

野畑 美咲 (明治大学) 2位

AP MIXED TEAM

佐藤 琳 (早稲田大学) / 岩佐 正貴 (自衛隊体育学校) 8位

のばたまさき 野畑美咲 選手

本選では3シリーズを終えるまで緊張がとれず、不安な気持ちもありながら試合がスタートしました。これまで練習ではうまくいくのに、試合で発揮することが難しいという課題がありました。今回の試合では、その課題を踏まえ自分の満足いく射撃ができました。今後も高みを目指して頑張りたいです。

さとうりん 佐藤 琳 選手

点数こそ伸びなかったが、今自分の取り組んでいる課題をしっかりと確認することができました。次戦(Jr. WCH)に向けて、引き続きよいパフォーマンスができるように頑張りたい。

総評

今大会は、オープニングからイベントマッチが組まれていたり、各国の選手がとてもフレンドリーにコミュニケーションをとるなど、フェスティバル感のある大会に感じられました。

そのなか、日本が参加した最後の種目、ARWで野畑美咲選手(明治大2年)が本選日本新を記録し、ファイナルでも23発目で同点に追いつき、最終弾で惜しくも敗れましたが、銀メダルを獲得する素晴らしい成績を残してくれました。また同種目において、三浦莉桜選手(明治大3年)もファイナルまであと0.3点と惜しい結果でした。

出場した選手それぞれがしっかりと課題も持ち、ひた向きに取り組んでいた姿を見て、ジュニア選手が近い将来、世界のライバル選手と十分戦っていけると確信しました。

いわさまさき 岩佐正貴 選手

本選からしっかりと修正ができたように感じたが、撃発にまだまだ課題が残っています。今一度、初心にかえり、自分の射撃を確認し、次戦(Jr. WCH)に臨みたい。

第49回全日本ライフル射撃競技選手権大会(300M)

開催地：埼玉県長瀬総合射撃場
開催日：5月13日(土)～14日

RESULTS

BFR P60MW

- 磯部 直樹 (大分県)
- 池袋 賢一 (茨城県)
- 近藤 桂司 (大分県)
- 南出 裕志 (神奈川県)
- 小塚 克生 (神奈川県)
- 内田 昌宏 (福井県)
- 武部 英一 (栃木県)
- 塚原 雄器 (石川県)

BHR P40MW

- 石井 正春 (秋田県)
- 藤野 裕司 (埼玉県)
- 茂木 孝 (埼玉県)
- 大門 省吾 (東京都)
- 鎌田 正平 (東京都)

BFR 3 × 20MW

- 磯部 直樹 (大分県)
- 嘉山 豪 (神奈川県)
- 近藤 桂司 (大分県)
- 歳清 勝晴 (東京都)
- 南出 裕志 (神奈川県)
- 荒木 俊行 (大阪府)
- 金坂 広幸 (千葉県)
- 小塚 克生 (神奈川県)

BFR P60MW スコープ

- 池袋 賢一 (茨城県)
- 佐藤 宗男 (福島県)
- 松原茂登樹 (東京都)
- 石井 正春 (秋田県)
- 大門 省吾 (東京都)
- 榊原 嘉仁 (京都府)
- 平田 隆則 (埼玉県)
- 平尾 哲朗 (大阪府)



BFR P60スコープ(300mライフル)……ビッグボアライフル 伏射60発スコープ付 BHR P40(300mハンティングライフル)……ビッグボアハンティングライフル 伏射40発
BFR 3x20(300mライフル)……ビッグボアフリーライフル3姿勢60発 BFR P60(300mライフル)……ビッグボアライフル 伏射60発

パラ

WSPSチャンウォン事前合宿

開催地：開催地：NTC
開催日：5月1日（月）～6日（土）

総評

チャンウォンで行われるワールドカップはパリ・パラリンピック出場枠がかかった重要な大会で、各種目につき WSPS が定めた上位者に枠が配分されます。そのため、遠征に参加する選手全員がこの合宿に顔を揃え、練習に励みました。この出場枠配分については昨年から始まっており、チャンウォン WC 以降は9月に開催される世界選手権、10月のアジア・パラ競技大会と、来年インド・ニューデリーで開催される予定のワールドカップの3回チャンスがあります。なお、パラリンピックに出場するには、上記の大会で出場枠を勝ちとる必要があります。

MQS

	2024 パリ
R1	600.0
R2	595.0
R3	625.0
R4	620.0
R5	628.0
R6	610.0
R7	1100
R8	1050
R9	610.0
P1	547
P2	510
P3	540
P4	510

※出場枠は選手ではなく、国に与えられます。パラリンピック代表に選ばれるには、選手は最低限、国際大会でこの表の基準点を2回撃たないといけません。

パラ

2023 WSPS ワールドカップ ・チャンウォン

開催地：チャンウォン（韓国）
開催日時：5月21日（日）～31日（水）
報告：田中 辰美/ハイパフォーマンスディレクター



総評

瀬賀亜希子選手がエアライフル伏射混合 SH2 クラスで日本に1個目となるパリ・パラリンピック出場枠を獲得。エアライフル伏射混合 SH2 クラスの団体戦（瀬賀/水田/金尾）で、日本が銅メダルを獲得しました。

みずたみか 水田光夏 選手

昨年に続き、チャンウォンで開催されたワールドカップに参加しました。個人的には悔しい結果となりましたが、チームとしてはおかげさまで私自身初めてのメダルを手にすることができました。今後は、2024パリパラリンピックのダイレクトスロットを獲得するため、9月に行われる世界選手権に向けてさらなる練習に励みます。

せがあきこ 瀬賀亜希子 選手

今回、団体戦に参加したことで結果が出せたと思います。水田選手と金尾選手の普段の練習の取組み方を見ていて自分も刺激を受け、もしかしたらメダルがとれるのではないかから「とりに行く」という強い気持ちで撃つことができました。3人だったからこそ結果が残せたと思います。最近、低迷していた私の射撃に新しいイメージのつくり方を学ぶよい経験となりました。

かなお まさる 金尾 克 選手

国際大会に出場するのは想像以上にたいへんで、技量以外に仕事・時間・費用と課題がたくさんありました。YKKライフル射撃部をはじめ職場の方々、家族、日本パラ射撃連盟など、みなさんにご支援・ご協力をいただいたおかげで、心身ともに万全な体制で大会に挑めたことが結果につながりました。見てくださった方に少しでも勇気と力になれたなら、これほどうれしいものはないです。

RESULTS

P1) AP 男子 SH 1

26位 齋藤 康弘
30位 森脇 敏夫

P2) AP 女子 SH1

19位 武樋いづみ

R1) AR 立射 SH1

14位 望月 貴裕

R3) AR 伏射混合 SH1

17位 渡邊 裕介
24位 岡田 和也
31位 佐々木大輔
32位 片山 友子

R4) AR 立射混合 SH2

32位 金尾 克
39位 木下裕季子

R5) AR 伏射混合 SH2

11位 瀬賀亜希子
14位 水田 光夏
35位 金尾 克

R6) 50M R 伏射混合 SH1

17位 岡田 和也
25位 渡邊 裕介
32位 片山 友子
33位 大滝健太郎
MQS 望月 貴裕

R7) 50M R3P 男子 SH1

13位 望月 貴裕
15位 大滝健太郎

Mix Team (P6)

14位 森脇/武樋

R3) AR 伏射混合 SH1

4位 岡田・佐々木・片山

R5) AR 伏射混合 SH2

3位 瀬賀・水田・金尾

R6) 50M R 伏射混合 SH1

5位 岡田・渡邊・片山

第25回日本学生選抜スポーツ射撃競技大会

開催地：愛知県総合射撃場
 開催日時：6月16日（金）～18日（日）
 報告：小久保 雄太 広報幹事

RESULTS

ARM

- 1位 中島 謙心（日本大学）
- 2位 松島 朔矢（日本大学）
- 3位 大塩 勇斗（明治大学）

ARW

- 1位 田邊 怜奈（立命館大学）
- 2位 泉館 玲香（明治大学）
- 3位 岡田 美月（立命館大学）

APM

- 1位 吉村 和徳（同志社大学）
- 2位 平野 翔太（東洋大学）
- 3位 佐竹 優吾（同志社大学）

APW

- 1位 佐藤 琳（早稲田大学）
- 2位 小西 怜奈（日本大学）
- 3位 福原 向葵（関西学院大学）

R3PM

- 1位 大塩 勇斗（明治大学）
- 2位 毎田 春彦（日本大学）
- 3位 内田 英寿（明治大学）

R3PW

- 1位 泉館 玲香（明治大学）
- 2位 新保 結希（慶應義塾大学）
- 3位 野畑 美咲（明治大学）

男子総合団体

- 1位 日本大学
- 2位 明治大学
- 3位 法政大学

女子総合団体

- 1位 明治大学
- 2位 日本大学
- 3位 同志社大学

総評

昨年度に引き続き学生選抜 TD（テクニカルデレгат）を拝命し、学連 OB として、とても光栄に思います。私が現役の大学生の頃、国内でも随一の辺境にある愛知県・下山の愛知県総合射撃場で、学連の全国大会を開催することになるとは夢にも思いませんでした。

選手の立場で考えれば、学連の大会運営は至らぬ点が多かったと思います。社会人の試合や NT 選考会には見られないローカルルールの存在もあり、学生の試合はもっとよくできる伸びしろがあると考えています。

学連には田上 TD をはじめ、TOKYO2020 などの国際競技大会を経験し、現在も射撃競技を続けている学連 OB・OG がついています。今後も、選手が一番輝ける競技会を目指し、持っている引き出しを全部開けて、支えていきたいと思っています。（鈴木慎平／愛知県ライフル射撃協会理事・学連中部支部幹事長 OB）

*

トップレベルの学生射手が愛知県に集う、学生選抜スポーツ射撃競技大会に貢献させていただき、ありがとうございました。私は大学生時代に、学連委員として学生大会の運営に携わっておりましたが、それから約7年を経て、自身初のテクニカルデレгатとして学生大会に関わることができ、うれしく思います。期間中は先輩の鈴木 TD とともに、学連委員のみなさんへ大会運営に関するさまざまなアドバイスをさせていただきましたが、私自身の勉強の場にもなり、大変有意義な時間を過ごすことができました。今年から、グレードの高い国内大会は国際基準に準拠することが求められ、学連内の運営・審判レベルの向上も課題となっています。今後もそばからみなさまをサポートできればと思っております。

（田上 諒／京都府ライフル射撃協会・学連関西支部副幹事長 OB）

特別カメラマン



2年連続で写真撮影に参加させていただきました。射撃場内の入場規制が緩和され、ファイナルでの各校の応援もコロナ禍以前の活気が戻ってきたように感じます。マスクなしの参加者も増え、みなさまの笑顔写真を残せることは撮影者冥利に尽きます。

今年は本大会が強化指定選手選考の対象試合（ARJ 種目）となり、同じく秋のインカレも対象試合に指定されています。シニア選手よりも多くあるチャンスを活かすことができれば、パリオリンピックの選考にまだ間に合います。

カメラへアピールしてくれた選手、役員のみなさま、ありがとうございました。今大会での写真は学連を通じて各大学に共有いたします。また次の大会でお会いしましょう。

（岡田直也／ALSOK）



ライスポ NEWS BOARD

事務局からのお知らせ

2022年度会長表彰

6月17日(土)、2023年度第1回社員総会が開催され、2022年度の会長表彰が行われました。表彰された方々は次のとおりです(以下、敬称略)。

◆会長特別表彰

袴田登喜造(日本学生射撃連盟)

◆会長表彰

山下 敏和(埼玉県ライフル射撃協会)
猪坂 朋彦(福井県ライフル射撃協会)

◆職員永年表彰

塚越ゆかり

◆年間活動賞

吉岡 大(京都府警/京都府ライフル射撃協会)
平田しおり(ALSOK/石川県ライフル射撃協会)

2023年度新体制、スタート

2023年度第1回社員総会においては、新理事・新監事が選任され、引き続き開催された臨時理事会において、会長以下執行部が決定、新たな体制がスタートしました。新体制は下記のとおりです。

役員	氏名
会長	松丸喜一郎
副会長	田村 恒彦
副会長	横山 幸子
副会長	橋本 聖子
専務理事	平 眞
常務理事	大野 明敏
常務理事	三木 容子
常務理事	平井 宏治
常務理事	佐橋 朋木
常務理事	近藤正晃(シエームス)
常務理事	成山 悟史
理事	田中僚一郎
理事	田口 亜希
理事	松島 愛
理事	酒寄 貴瀬
理事	穂刈美奈子
理事	粟生 由紀
理事	寺澤 良悦
理事	藤枝 操
理事	横沢 聡
理事	尾崎 和郎
理事	高橋 信吾
理事	青木 満博
理事	仲本 渚
理事	五十嵐 治人
理事	田中 辰美
理事	堀水宏次郎
監事	岸高 清
監事	永谷喜一郎

※○…新任 ◇…前役職 成山常務理事(前理事)、永谷監事(前理事) 理事待遇/門間健一、大木盛義

特別会長表彰

話題豊富で賑やかな協会に

袴田登喜造



日本ライフル射撃協会が社団法人になる年、会員となりましてので、協会がライフル同好会のような状況から、徐々に組織として変わりつつあった、その一歩目からかわってきたこととなります。この間、射撃をする人々は変わって

んが、取り巻く環境は変化していきました。例えば、大会を出場する自分たちで企画・運営まで手づくりでやっていたところから、射撃をする人・企画する人・運営する人といったように、役割分担されるようになりました。このように、生まれ変わる段階をその都度見てきた、ということになりますね。

現在、競技人口、会員数ともに減っていますが、その一方で、eスポーツはじめていた新しい射撃の楽しみ方も生まれてきています。これからは多角的な方面から会員を増やしていき、話題豊富で賑やかなライフル射撃協会になっていくことを願っています。

職員永年表彰

わかりやすい事務局でありたい

塚越ゆかり



大学4年間、射撃部に在籍し、卒業してすぐに協会に入って20年を迎えました。

職員となってさまざまなことがありました。なかでも忘れられない出来事といえば、東日本大震災が挙げられます。ちょ

うどそのとき、宮城県石巻市での大会開催を週末に控えていました。私は当時事務局があった渋谷の岸記念体育館にいました。大きな揺れでたいへんな騒ぎになっていたなか、出場選手が現地入りしているというので、ご家族から安否確認の連絡が協会に入ってきたのです。そこからみなさんの安否確認に追われ、全員の無事が確認できたときはホッとしました。

現在、事務関係の書類が電子化されてきていますが、これからも加盟団体のみなさん、選手のみなさんになるべくわかりやすく事務作業ができるよう、頑張っていきたいと思っています。

10.9 FOCUSED.
TARGETED.
EXACTLY.

WALTHER

**LG400
MONOTEC**



KK500
PRECISION IN A NEW DIMENSION

POWERED PERFORMANCE.



(公社) 日本ライフル射撃協会オフィシャルサプライヤー
株式会社 **國友銃砲火薬店**
〒600-8032 京都市下京区寺町通仏光寺東入る 國友ビル 3F

ワルサー社・エレー社 日本代理店

TEL(075)351-3037 FAX(075)351-3041

<http://www.kunitomogs.co.jp> E-mail:shooting@zj8.so-net.ne.jp

事務局からのお知らせ

「ライフルスポーツ応援
ふるさと納税」
ご協力をお願い

新宿区への寄付を通じて、ライフル射撃競技をご支援いただける「ライフルスポーツ応援ふるさと納税」の制度をご存知でしょうか？

当協会の本拠地があります東京・新宿区の『ふるさと新宿区わがまち応援寄付金』に「公益社団法人 日本ライフル射撃協会」を指定。ふるさと納税を行っていただきますと、みなさまから贈られた寄付金は7割を上限に、新宿区から当協会に対し支援金として交付されることとなります。

協会では、2021年度よりこの制度が利用できるようになっております。これまでたくさんのおみなさまから多大なご支援・ご協力をいただけてきました。改めて、深く感謝申し上げます。東京2020オリンピック・パラリンピックも終わり、スポーツ団体に対する国の財政支援も減少されるようになってきました。そのため、当協会も厳しい状況に置かれております。みなさまからいただきましたご支援は、普及・育成・強化などさまざまな面で活用させていただきます。

現在、みなさまにより手軽にこのふるさと納税をご利用いただけますよう、事務局

では作業を続けております。詳細につきましては、次号でお知らせいたします。ライフルスポーツのますますの発展のため、どうか一人でも多くのみなさまからのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

例) 給与所得(年) 500万円、共働きのAさんが「新宿区 日ラ応援ふるさと納税」を6万円、行った場合

*通常支払う税金 年間約38万円

内訳

所得税14万円+住民税24万円

*ふるさと納税をした場合 年間約38万円

内訳

所得税13万円+住民税19万円

+ふるさと納税6万円+2000円

※2000円だけ自己負担額があります

EVENT

ライフル競技の聖地・朝霞
(埼玉県)で

スポーツ射撃体験会、開催!

スポーツ庁令和5年度組織基盤強化支援事業

1964東京オリンピックに続き、東京2020オリンピック・パラリンピック射撃競技が開かれた朝霞市で、今年度初の「スポーツ射撃体験会」を開催しました。



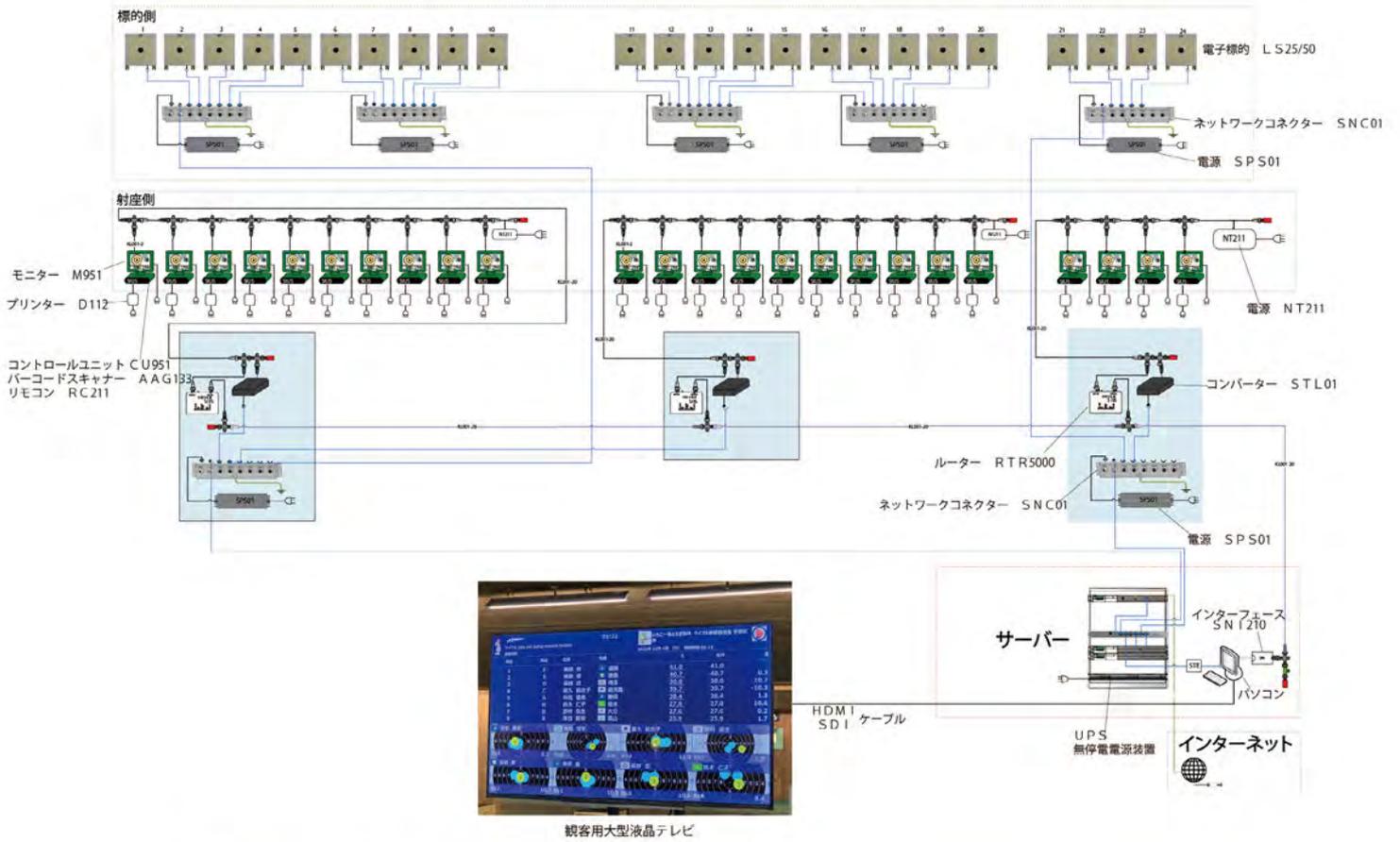
あいにくの雨模様にもかかわらず、事前申し込みを含めて150を超える参加者が来場。いつもの体験会とは異なり、10分交代という短い時間での体験でしたが、何度も繰り返し並んで高得点を狙う人、チームピストル・ビームライフル両方にチャレンジする人、付き添いのご家族も一緒になって始めるなど、子どもも大人も一緒になって、笑顔で楽しんでいる姿が多く見られました。

朝霞市在住でバルセロナ・オリンピック銅メダリストの木場良平氏もたくさんの人たちが楽しむ姿に「私の時代にはこうしたイベントはありませんでした。いい光景ですね」。

また、会場には現役選手のもとでライフル射撃シミュレーションを体験できたり、東京2020大会で実際に使用された表彰台とトーチを手に撮影ができたりと、訪れた人々には射撃とオリンピックに触れると一日となったようです。



STYX ネットワークシステム



ISSF公認 (Phase III・最高評価の公認)

光学式電子標的・超音波式電子標的

SIUS 社 日本総代理店
日本ビーム株式会社
www.japanbeam.com



強化指定選手の紹介

2023年4月1日付

野畑 美咲

AR

ノバタ・ミサキ



生年月日 2003/8/25 出身地 大分県大分市
身長 157cm 出身校 植田南中—由布高 所属 明治大2年 利き手 右 利き目 右 射撃開始年齢 16歳
主な戦歴 2023アジアエアガン3位、2023WCジャカルタ4位、全日本ライフル射撃選手権優勝
「高校から射撃競技を始めて、こんなに早く強化指定選手に選ばれたことをとても嬉しく思うとともに、射撃競技は誰でも日本一になれるチャンスのある種目だと思いました」

中口 遥

AR

ナカグチ・ハルカ



生年月日 1998/1/13 出身地 鳥取県日吉津村
身長 152cm 出身校 翔英学園米子北斗中—日野高—同志社大 所属 滋賀ダイハツ販売 利き手 右 利き目 右 射撃開始年齢 15歳
主な戦歴 東京2020オリンピック出場
「指定選手としての自覚を持ち、1日1日を大切に練習に励み、目標達成に近づいていきたいと思っています」

遠藤 雅也

AR

エンドウ・マサヤ



生年月日 1998/2/16 出身地 岐阜県美濃市
身長 167cm 出身校 美濃中—関有知高—日本大 所属 名阪急配 利き手 左 利き目 右
射撃開始年齢 15歳 主な戦歴 2022とちぎ国体3位、2017ジュニア世界選手権優勝
「強化指定選手Aを目指して頑張ります」

島田 敦

AR

R3P

シマダ・アツシ



生年月日 1998/7/20 出身地 埼玉県上尾市
身長 168cm 出身校 大谷中—栄北高—日本大 所属 自衛隊体育学校 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 15歳
主な戦歴 2017WCニューデリー3位、同年ジュニア世界選手権団体優勝
「まだまだ実力不足なので、努力し続けていきます」

岡田 直也

AR

R3P

オカダ・ナオヤ



生年月日 1990/10/10 出身地 岡山県津山市
身長 183cm 出身校 津山西中—津山工業高 所属 ALSOK 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 18歳 主な戦歴 リオデジャネイロ2016オリンピック・東京2020オリンピック出場、2023WCジャカルタ優勝
「自分自身のパリオリンピック出場枠はもちろんのこと、チームとして複数の出場枠獲得ができるように頑張ります」

花川 直樹

AR

ハナカワ・ナオキ



生年月日 1998/7/8 出身地 兵庫県伊丹市
身長 160cm 出身校 南中—箕面自由学園高一—日本大 所属 自衛隊体育学校 利き手 左 利き目 左
射撃開始年齢 15歳
主な戦歴 2018年度全日本ライフル射撃選手権10M優勝
「世界一を目指して頑張ります」

堀之内 愛

AR

R3P

ホリノウチ・アイ



生年月日 2000/6/19 出身地 徳島県小松島市
身長 159cm 出身校 板野中—小松島西高勝浦校—日本大 所属 自衛隊体育学校 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 15歳 主な戦歴 2022年度全日本ライフル射撃選手権大会50M兼全日本選抜ライフル射撃競技大会50M3x20M優勝
「選ばれたことにより、よりいっそうの努力が必要と感じました。また、これを機にさまざまな経験ができることを期待しています」

平田 しおり

AR

R3P

ヒラタ・シオリ



生年月日 1999/11/6 出身地 石川県能美市
身長 161cm 出身校 根上中—金沢伏見高—明治大 所属 ALSOK 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 15歳 主な戦歴 東京2020オリンピック出場、2019アジア選手権3位
「強化指定選手に選ばれたことを嬉しく思います。今後さらなる上を目指して射撃を学んでいきたいと思っています。応援のほど、よろしく願っています」

清水 綾乃

AR

R3P

シミス・アヤノ



生年月日 1990/11/18 出身地 岐阜県岐阜市
身長 159cm 出身校 境川中—済美高—中央大 所属 自衛隊体育学校 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 15歳 主な戦歴 2022全日本ライフル射撃選手権優勝
「向上心を常に持ち、目標達成に向けてさらに努力していきたいと思っています」

清水 彰人

R3P
シミズ・アキヒト



生年月日 1999/4/28 出身地 徳島県鳴門市
身長 167cm 出身校 稲付中—王子総合高—ウエストバージニア大 所属 徳島県ライフル射撃連盟 利き手 右 利き目 右 射撃開始年齢 12歳
主な戦歴 2017 ジュニア世界選手権団体優勝「さらなる高みを目指し、努力をしています」

大塩 勇斗

R3P
オオシオ・ハヤト



生年月日 2001/9/4 出身地 福井県福井市
身長 174cm 出身校 稲付中—足立新田高 所属 明治大4年 利き手 左 利き目 左
射撃開始年齢 10歳 主な戦歴 2022年度全日本ライフル射撃選手権優勝「強化指定選手という立ち位置に甘えることなく、さらなる競技力の向上を目指します」

松本 崇志

AR
R3P
マツモト・タカユキ



生年月日 1984/1/10 出身地 長崎県島原市
身長 167cm 出身校 三会中—島原工業高—日本大 所属 自衛隊体育学校 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 16歳 主な戦歴 東京2020オリンピック出場「オリンピック出場枠獲得を目指して頑張ります」

2023年度強化指定選手選考基準

強化指定選手の対象とする競技種目は、パリ2024の実施種目とする。ライフルAR60、AR60W、FR3PM、R3PW
(強化指定選手A)

- ◆強化指定A基準点をクリアし、その試合を含む強化指定ランキング5位以上の場合、指定する
- ◆6位以下の場合、翌半期末までの間に5位以上になった場合指定する
- ◆WC・世界選手権で8位入賞し、その試合を含めた強化指定ランキング5位以上であれば指定する(即時内定/内定時から翌半期末まで指定)

※ライフル A基準点
AR60/AR60W 628.4 R3PW/W 3x20 588/586
(強化指定S選手)

- ◆QP獲得選手、世界選手権8位入賞以上・ワールドカップメダル獲得選手を即時内定

松本 靖世

R3P
マツモト・ヤスヨ



生年月日 1990/11/21 出身地 熊本県熊本市
身長 153cm 出身校 鹿南中—文徳高—関西大 所属 いちご 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 16歳 主な戦歴 2022とちぎ国体2位「射撃の代表選手として他の選手の見本となるような選手を目指していきたいと思います」

千葉 朔海

R3P
チバ・サクミ



生年月日 1997/1/30 出身地 千葉県柏市
身長 167cm 出身校 光ヶ丘中—栄北高—早稲田大 所属 日立ビルシステム 利き手 右 利き目 右
射撃開始年齢 16歳 主な戦歴 2022 50M全日本ライフル射撃選手権優勝「みなさまのご期待に応えられるよう精一杯頑張ります」

ウイム・キム・ウイヨン

コーチ
ナショナルコーチ(ライフル10M)



KIM Woo Young

生年月日 1981/11/10 出身地 韓国
主な指導歴 韓国ナショナルチームコーチとして活躍。2018世界選手権の女子優勝者、東京2020オリンピックでは2人の入賞者を排出。2021年10月から日本チームの指導に着任。

モットー 「『真心を尽くせば必ず叶う』。選手たちに私ができる限りの真心を尽くせば、結果は自然につくられると思います」

ゴラン・マキシモビッチ

コーチ
ナショナルコーチ(ライフル50M)



GORAN MAKSIMOVIC

生年月日 1963/7/27 出身地 セルビア
主な戦歴 1988ソウル・オリンピック優勝ほか
主な指導歴 イラン・セルビア・ギリシャ等元ナショナルコーチ。ロンドン銀メダリストのイバナ・マキシモビッチは実娘。

モットー 「仕事には、アスリートから権威と尊敬を得る必要があります。それがあればトレーニングの質が上がって課題に取り組むようになり、競技に臨む準備が整います。そして誰にも公平であることが大切です」

ドミール・ドシヤノフ

コーチ
ナショナルコーチ(ピストル)



Emil Dushanov

生年月日 1962/4/9 出身地 ブルガリア
主な戦歴 ブルガリア選手権 RFP世界記録を樹立
主な指導歴 マリア・グロズデバ選手は教え子。1997年から日本チームのピストルコーチに着任。

モットー 「困難な時期や瞬間に、個人的に決定的な対応をするチャンスは常にある。成功は確かなモチベーションの焦点であり、目標である。白屋夢のように、潜在能力をフルに発揮させる。成長を促し、潜在能力を引き出す。自信をつける、卓越を達成する」



今月の表紙

巻頭の『射手の美学』に登場した平田しおり選手(ALSOK)。2022年度の活躍が評価され、吉岡大選手(RFP/京都府警察)とともに年間活動賞が贈られた。表紙は、5月に開催された全日本ライフル射撃競技選手権大会でのワンカット。

CONTENTS

射手の美学..... P2

国内競技団体として先陣を切り、
eスポーツに挑戦! P8

オリンピックeスポーツシリーズ 2023

リニューアル記念特別座談会
未来を語ろう

ライフル射撃の現在地と、これから 後編..... P10
普及・育成・強化を一本の線で結び、
射撃競技の未来へ歩む

ジュニア・女性・ベテランが大活躍..... P16

2023年度全日本ライフル射撃競技選手権大会(10M AR/AP)
2023年度全日本選抜ライフル射撃競技大会 50M ライフル共生種目

From shooting range Fill2
栃木県ライフルスポーツ射撃協会..... P18

ライフル学 アスリートのための視覚講座..... P14
大会レポート..... P20
ライスポ NEWS BOARD..... P24

強化指定選手の紹介(ライフル編)..... P26

ライフル人 **袴田登喜造** 名誉副会長 P30

ライフルスポーツ 夏 2023 JULY

発行：公益社団法人日本ライフル射撃協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
TEL 03-6721-0792 FAX 03-6721-0793
Http://www.riflesports.jp/
Email : rifle@riflesports.jp

取材に関しましては下記までご連絡ください。
E mail : shuzai@riflesports.jp

発行人：松丸喜一郎
編集：総務委員会広報部会、78works
写真：松島愛
デザイン・印刷：明宏印刷株式会社

※ 本誌はスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。
記載記事、写真などの無断転載はお断りいたします。

次号は2023年10月15日発行予定です。

ライスポ春号におきまして、以下の誤りがありました。下記のとおり訂正させていただきます。
・P26 小西ゆかり選手のプロフィール
(誤) 出身地：北海道双海郡→(正) 北海道二海郡
・P27 山田聡子選手プロフィール
(誤) ピistol開始年齢13歳→(正) 高校1年
・P29 未来のオリンピックたち 阿部曉梨沙さんコメント
(誤) (AR 東京成徳大高校1年)→(正) (AR 成立学園高校1年)
ご本人、関係者ならびに会員のみなさまにご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

ライフル人

~ Shooting for All, All for Shooting ~

機関誌から広報誌へ(後編)

はかまだと きぞう
袴田登喜造 名誉副会長

前号に引き続き、私が所蔵する過去の機関誌を振り返ってみる。

『日本ライフル射撃協会会報』A3版二つ折り、縦書き、4ページ、No.1は1969(昭和44)年6月発行、隔月発行、No.6から年4回に変更、購読料年400円。



広報の観点から、会員だけでなく体協(現日本スポーツ協会)などにも活動PRのために配布すると書かれていて、行事予定、各委員会報告、学連や高校の近況、大会成績がある。

また、一般からの投稿も載せたいと意見提言や射撃に関するトピックス、漫画などを募集。その後、協会法人化の事務繁多のためかNo.9のあとは1年中断して、再開。No.10からNo.13は約4千名の会員に無料配布すると決め、都道府県協会あてに送っている。

光線銃開発報告が載っている1973(昭和48)年2月のNo.13が最終版である。発行が遅れがちで、会員になかなか行き渡らない反省をもとに、全面改訂するとして、いまのライフルスポーツにつながる。

『ライフルスポーツ』B5版、年12(のちに6)回発行、40ページ、1973年8月創刊



No.1から1988年12月No.296までは成績や十傑は横書きだが、記事は縦書きだった。それがNo.297からは横書きに統一され、左綴じ、左開きに。タイトルロゴも2022年No.453に昔の表紙が載っているとおり初期型から、ライフルの字と少し小さいスポーツの字体に変わっている。読者には関わりないが印刷会社も代わった。

購読料は年2400円で希望者に配布していたが、送料の値上がりや経費負担圧縮などを勘案して、消費税導入のころには税込みで5150円にもなっていた。年会費が3千円から6千円に値上った1994(平成4)年4月から普通会員は全員に無料配布と大幅変更、会員外は3600円に。

協会のホームページ開設に伴い、2002年2月のNo.333まで続いた毎月発行から隔月発行になった。

以上であるが、それぞれの機関誌をよく読むと、その時代の空気感があり、関係者への思いを込めた誌面づくりの苦心が窺える。これからのライフルスポーツは取材、執筆、構成とプロの力を得てリニューアルされるが、より多くの人が手にとり、読みたくなるもの、興味を持たれるものにするには、素材となるみなさんが一肌脱ぐ、その覚悟、意気込みが必要だ。よろしく頼むと願いつつ、擲筆する。



REACH BEYOND



追いつく風に飛び乗れ。

前へ進みながら
新しい風を感じている。
未来へと向かう風。
軽快に、爽快に。

自分の意志と、自分の力で
スタートを切った私たち。
背中を押されるままに
その風に飛び乗ればいい。



MIZUNO
TRAINING





スマホ防犯は、ALSOK。



レスリング 園田 新
レスリング 森川 美和
レスリング 屋比久 翔平

柔道 梅木 真美
柔道 原田 健士
柔道 瀬川 麻優

今の時代、「暮らしの安心」もみんなのものになるべきだ。

そう考えALSOKがたどり着いたのが、

身近なスマホを使って自分で防犯ができるスマホ防犯です。

カメラとスマホアプリが連携し、リアルタイムで自宅をチェック。

取付もかんたんで月額料金もおトク。

誰でも気軽に始めやすく、アップグレードもでき、
生涯にわたって家族の安全安心がしっかり守られます。

これぞまさに、新時代のホームセキュリティです。

HOME ALSOK Connect

24時間 365日受付 |  0120-39-2413

サンキュー ツヨイ ミカタ